

グローバル・パートナーズ・シチズンシップ(G・P・C・S)の

考え方を住いに置き換える

今年1月28日から2月2日に開催されたスイスのダボス会議において会長のクラウス・シュアブさんが発言された言葉が忘れられないので皆様にお伝えしたいと思います。

ダボス会議を主催する世界経済フォーラムのクラウス・シュワブ会長は、国家の枠組みを超える、国と民間の新しいネットワークが不可欠だといっていました。さらに、地球規模の問題に直面する企業は、企業の社会的責任を一步前に進めた、"グローバル・パートナーズ・シチズンシップ"という新たな哲学を持つべきだと指摘していました。

高速道路に例えると、アメリカの企業は、時速250km~300kmなどの猛スピードで走り続けた結果、大事故を起してしまいました。リーマンブラザーズなどがそうだ。政府は救急車の役目を担っている。これが、世界中に影響を及ぼしている。今、世界中の問題は、保健の問題は、世界保健機関(WHO)に、貿易の問題は、世界貿易機構(WTO)にと、分断されているが、近いうちに、全ての問題をひとつの機関で解決するべき時が来る。地球温暖化の問題にしても、色々な問題と複雑に入り混じり関係している。自分よがりな考え方、自分たちさえ良ければ、他国は貧困に喘いでも関係ないという考えは、もはや捨てるべきである。世界中に「無関心」でいてはいけない。理由の一つは、倫理的、道徳的なこと。遠く離れたアフリカの人々が飢えに苦しんでいるのを見てみぬふりをしてはいけない。もう一つは、世界中の国が潤えば、アフリカの国の人々でも、消費者になりうるからだ。企業の社会的責任を一步前に進めた、"グローバル・コーポレート・シチズンシップ"という新たな哲学を持つべきだ。ミネラルウォーターを製造販売している企業では、アフリカが水不足にならないように、井戸の設置を行っている。トップダウンの方式から、ボトムアップの方式に転換していかなければならないと提唱している。

私は一材木屋です。しかし地球丸の一乗組員には違いありません。其中でG・P・C・Sを具体的に考えました。出した答えが正しいか間違っているか分かりませんが、**私の考えは材木屋という仕事は当たり前仕事を馬鹿になって、ちゃんと伝えることそれ以外の物は何も無いと思います。**

ところで先々月号で勉強会のアンケートを御願いいたしましたが建築士さんの苦悩を凄く感じました。現在の日本建築で完全空調にした時、木が暴れ仕方なく集成材を使わなくてはいけないと聞いたからです。

日本でも特に大阪の夏は蒸し暑く冬は建物が林立している事で陽が当たらない等の種々雑多の問題で仕方なく完全空調にしなければ生活がエンジョイ出来ない事は事実だと思います。現実私の家もそう言う住環境のあまり良くない所に有ります。

如何すれば人間の体に良い無垢の木を使っただけかを考えた時、狂いの問題の正体を確かめるのが大事ではないかと考えました。私の住いの場合無垢の建具類(ドア等)を玄関ドアから各部屋のドアを含め95%以上無垢の建具を使っています。狂いは確かに有ります。しかしドアが閉まらなくなったりはしていません。

造作類(巾木・カーテンボックス・廻り縁)は埋め込みなので狂いが有っても支障は無いはずですが。私の住いの造作類の間違いは西陽の当たる場所にヒノキの無垢の四方無節のアテの面がまともに来ており新築後半年で柱の一面が割れてしまいました。と言う事位です。

全く狂いの来ない無垢の建具は作るのとは不可能です。多少狂っても生活に支障のない程度の狂いの少ない建具を作るのを薦めるのが我々材木屋の使命だと思っています。使用材は玄関ドアを無垢で作る場合私の勧めるのは高価ですが私も使っているチーク材です。又室内ドアの場合タモ・ナラの柾目の通った良い木を使ってシンプルな狂いの少ない設計の物が最適だと思います。

無垢の木材は生きて以上多少の伸び縮みの動きはします。其れが無垢の良さだと思います。しかしそれ以上に今の住いの建て方において狂いの生じやすい建具類は、それに見合った良い材料を吟味し、目切れの無いスカット目通りの良い木取りの方法を用いる事を私はお勧めします。多少のお値段は上がりますが長い目で見ればこれがベターだと思います。

虐めないで下さい。景気が悪いからと言ってエンビ商品を使わないで下さい。こんなときこそ無垢を使って下さい。

もう限界に来ています。こんな始まりで新聞を書く事は初めてです。しかし書かなくてはいけない状況に追い込まれています。と言うのは去年の10月に起こった金融危機が、木材産地に大打撃を与えているのです。アメリカ東部の世界的な競争力の有るダンザーグループのB社も生産活動は平生の四分の一以下になり、日本の国内に材の供給がままならない状態に追い込まれたり、アラスカ材原木を主に取り扱う専門商社も、全く国内の市場が売れないから、凄く困っています。南洋材もしかりの状態です。

木材市場は最低限の数量が動いていなければ失速してしまうのです。其の理由は外国産材を使わないとやって行けない状況の日本国内の市場にも拘わらず、今は売れ行きが悪いから要らないとは、日本人同士の商いなら言えますが、対外国シッパーには簡単には伝わりません。要らないなら、生産を直ぐ止めるのです。そして最終的に困るのはエンドユーザーさんなのです。

我々の扱っている木材商品は工業化商品とは違い注文が来てから作るのでは決して有りません。半年ないし1年位の時間が必要です。乾燥を含めると3年位の時間が必要な場合も有ります。例えばアラスカ産のスプルーース原木は夏場しか輸入できません。従って其の時に手当てをしなければたちまちマーケットから商品が無くなるのです。商品が無かったら設計もままなりません。このように我々材木屋の仕入れの状況が今年に入ってからごろっと様変わりしたのです。

アメリカ国内の住宅市場が混乱している事は皆様もご存知だと思います。住宅着工がピークの4分の1以下になっています。その影響はアメリカ国内のみならず日本にも及んでいます。米材針葉樹原木及び製材品を取り扱う専門商社の営業の方達は日本中の使ってくれているお客連中を訪問し末端の需要動向を探っています。物を売るための単なる営業ではなくどれ位の量が裁けるかを真摯に捕らえようとしています。確実に需要動向が解かる筈は有りませんし、又解かれば怖くて大量の原木を輸入出来る筈は無いと思います。

其の理由は輸出国側から見れば日本だけが、マーケットではないです。日本は特殊な事情の上に成り立っている特殊な立場のマーケットなのです。其の理由はハイグレードのみを欲しが市場なのです。ローグレードは開発途上国等である程度は裁けますが、**ローグレード5~10本に対してハイグレード1本位の割合しか無いのに日本人はハイグレードのみを欲しが市場なのです。**

日本国内がハイグレード材しか使えなくなった理由は、単価の安い物を人件費の安い国で大量に作るようになってしまったからです。其の象徴が百元ショップで売られている木製品です。



左記写真は本年7月10日に大阪府岸和田港に入荷したスプルーース原木です。昨年比数量的に言えば半分です。しかも約一ヶ月遅れで入港しました。先々の入荷予定も多く無く、下手すれば昨年比半分以下しか日本に入ってくる可能性は有ると、専門家より聞いています。

樹種は違いますが極端な入荷不足の状況になっているのは南洋材の平割りです。前年比70%以上減っています。それでもマーケットに混乱が起こらないのは需要がそれ以上に少ないことだろうと思います。景気対策及び選挙後の新しい政策によって輸出依存の日本の経済運営から少しでも内需中心の経済運営に変わって、国内の住宅市場が潤うようになった時、物不足が何時おきてても可笑しくないとはいえません。

物不足が何時おきてても可笑しくないとはいえません。

材木屋だから解かる大変な物不足時代が来るかも知れないのが今日の状況です。

服部雅章ってただの材木屋です。



材していた方法は必ずしも完璧な製材方法ではなかったのです。

経験だけでは正しい事は解かりません。大先輩がいらっしゃる時にどんどん教えて頂こうと思いました。

日本人の民族性について

私は昭和33年生まれで東京オリンピックも少し記憶にあり大阪の万国博覧会も10回以上遊びに行きました。高度経済成長時代の真っ盛りの時代に少年期を過ごしたのです。そして今が有るのですが、幼い当時の思い出で、今でも忘れられない事が有るのです。それは小学校五年生から六年生の時の担任の先生のことです。

其の先生は女性の先生でしたが、少し男勝りの点も有り凄く記憶に残っています。

些細な事で私が友達と教室で喧嘩をしたのですが、先生が真ん中に入り双方が納得するまで指導を辞めなかったのです。喧嘩は片一方の責任で起こりません。必ず双方に問題が生じたから起こったのです。先生が喧嘩の裁きをしてくれた後は凄く中が良くなったと思ひ出します。

当時の私達の学年は4クラスで1クラス40人だったと思ひます。体育の時間クラス対抗のプール大会とか球技大会が一年間で2~3回有りましたが、凄くクラスが纏まっていたと記憶しています。大会の時学年一位になったり、学年最下位になったりしましたが、他のクラスの友達には大会のとき熱いライバル心を燃やして競技をしていました。

私の小学校6年間中学校3年間高校3年間大学4年間合計16年間の中で一番楽しかった2年間ではなからうかと思ひます。

ところで今年の我々日本人はワールドベースボールクラシックで民族が一つになったのではないかと思ひます。この民族が一つになると言う事は何を意味しているか、これは国威発揚ではなからうかと思ひます。オリンピックを東京都知事の石原さんが誘致しようと頑張っていますが、本当の目的は日本人の民族意識を少しでも変えたいと言う思いではなからうかと思ひています。今日の何とも言えない閉塞感を乗り越えるためには日本人全員に本当に日本国に対する愛国心のあり方を訴えかけているように見えるのですが。

国威発揚と言う手段をもちいる必要が有るのが、今の日本ではなからうかと思ひます。

私には先生がいます大先輩の材木屋の会長です。其の会長の家とは80年の知り合いです。私に残された唯一の木材関係の権威です。左記の本は其の会長にお借りした本ですが、其の中に書いてあることを一字一句読んだのですが、服部雅章は『大した事は無い』と書いて有りました。

と言うのは、広葉樹原木は末口から主に製材していました。しかしこの本には元から製材するほうが良いと書いてあるのです。そして本のとおり元から製材してみました。すると理由は解かりませんが、少し歩留まりが良いのです。

そして出来上がった製材品も何か良いのです。

私は父親から服部商店に入社した25歳から父が亡くなった45歳まで、材木屋として仕込まれましたが、亡き父が現場で製

日本人に必要な心

日本にはわび・さびと言う言葉が有ります。其れは2000年の歴史において形成されて来た物です。しかし昨今は全くそう言う物は必要がなくなったのでしょうか。そんな事は無いはずでず。

この間アメリカ人の住宅について書いた本が有りました。その中には金持ちの家も一般庶民の家も骨組みは物件の大小を除いて全く同じと書いて有りました。アメリカの一軒屋は70%以上木造だそうです。勿論ツーバイフォー住宅です。しかしお金持ちの家とそうでない方の家の違いは内装である。と明記されておりました。考え方はスケルトン・インフィルの考え方だと思います。スケルトン部分に最初にお金をかけ、収入が増えるごとにインフィル部分にお金をかける。この事が中古住宅市場の活性化にもなり物を大事にするし、極当たり前の考え方ではないかと思ひます。これが日本人の本来持っているわび・さびの文化ではなからうかと私は思ひます。

しかし今の日本の住い作りにはわび・さび、つまり我慢とか辛抱が無い設計になっているのではと思ひます。住いを設計する時から100%のお客様の希望を取り入れようとすると無駄な消費を生む設計になると思ひます。例えば一年のうち一週間しか使わない床暖房設備・テレビが風呂に付いているバスルームこんな物が本当に日本人に必要なのですか。私は凄く日本人の心つまり教育と言うか道徳を疑ひます。

戦後我々日本人はアメリカに追いつけ追い越せで先輩達が頑張つて来た事は目にしています。しかし『日本人の哲学は何なのか』考えると全く理屈の解からない人種だと思ひてしまいそうになります。森林においても木が有るのに態々CO2を出して輸入し、其のせいで日本の山が荒れ果ててしまったのでは有りませんか。日本に無い安くて良い木を輸入するのは昭和の始めの時代から始まっています。米松原木は其の例です。又スプルースと言う桧の代用として輸入された材は、幅広が狂いの少ない桎目で取れると言う利点の為に輸入されているのです。

しかし日本の山を有効利用するためには如何にあるべきかを考えると、取りあえず構造材しか用途の無いスギ・ヒノキを大系原木に育てる為に間伐を実施する。其れを構造材に使う。そして下に書いてありますが循環型森林を如何に構築していくかを考え具体的に行動する必要が有ると思ひます。

